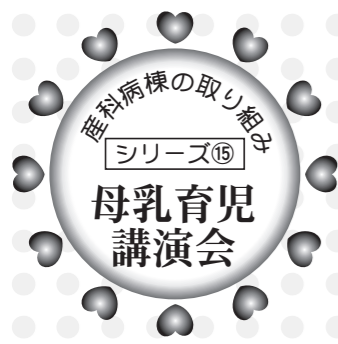




公立芽室病院 だより 第68号

ホームページアドレス
http://memuro.com
又は芽室町ホームページのトップページから
アクセスできます。



実施しているものです。

今回の講演は「お母さんと赤ちゃんは一緒がいちばん」と題して、旭川医科大学病院 周産母子センター 副部長 林 時仲 先生に御講演頂きました。

では、講演の内容を紹介します。

～我が国の育児の変遷～

戦前の母親達は、我が子をいつもおんぶし、場所を気にせず、すぐに母乳を与えていました。母親達は、子どもの幼年時代をいかに長くしてやるかということに集中していたのです。

いつも添い寝し、おんぶに抱っこという愛情シャワーを与えていた結果、常に穏やかで、社会や大人のルールに従う子どもが、自然に育てられていました。この頃の母乳率は、80～90%。

しかし、日本は敗戦により、GHQが介入。新生児死亡率を下げるために、児を新生児室に隔離し、時間毎のミルクを与えるようになりました。抱っこやおんぶは無く、泣き叫ぶ児が増えました。その結果、その児が成長し、いじめや家庭内暴力の増加が起り、社会問題となりました。そこから、今米国でも「抱き癖がつくことはありません」と、母乳育児を認めるようになってきています。

母乳育児は、あらゆる関係の発展の基礎になるのです。

～お母さんと赤ちゃんは どうして一緒に良いのか～

母乳育児は、母と子の絆を深め、育児不安を低下させます。(母乳分泌の促進や児の感染症の低下にもつながります)

今回は、平成20年10月25日に行われた、第3回母乳育児講演会の様子をお知らせしたいと思います。

この講演会は、「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」である本院の取り組みの1つとして

しかし、現在日本では、1年間に60人の子が、虐待で死亡しています。

虐待された子どもの出生状況をみると、低出生体重児が4割を占めています。

低出生体重児で生まれた子は、保育器に入るなど手もかかり、母児が離ればなれになることで、母が子に興味を持てなくなるのです。

又、母が虐待や厳しいしつけをされて育ってきた場合も、我が子をどう扱ったら良いかわからないという状況になります。

周産期は、個人史と向き合って、受容される経験を得ることが必要なのです。

～お母さんと赤ちゃんが 一緒にいるための工夫～

- ・赤ちゃんは、生後30分間カテコラミンの分泌が上昇します。この覚醒している間に、カンガルーケア(母の胸で児を肌と肌を触れあわせて抱く)をし、児のぬくもりを忘れないようにする。
- ・母子分離を出来るだけ避ける。いつも面会出来るようにする。
- ・出生直後からの母子接触と授乳、24時間母子同室、母乳育児の為に正しい知識と技術を母親に伝えることに加え、母親へのエモーショナルサポートが大切。決して、特別なことをしている訳ではありません。



☆当日は、お母さん方や医療関係者の方など、約100名が参加され、熱心に講演を聴いておられました。今回は、おじいちゃんやお子さん連れのお母さんと共に、お父さんの参加も多くありました。母乳育児が、家族や地域の人々で行っていくものであることの認識の広まりであることも実感出来、とても微笑ましく嬉しい光景でした。今後も、赤ちゃんとお母さん、そして家族の皆さんや地域にもやさしい病院を目指し、頑張っていこうと思います。

★今後の(はぐ Hug)の予定
ベビベビ(プレママ教室)..... 1/7(水)
はぐ Hug..... 1/21(水)
テーマ「産後の母体ケアとベビー体操」
..... 2/18(水)
テーマ「お産のはなし」

*いずれも事前の申込みは不要です。
お問い合わせは当院産婦人科病棟まで
☎0155-62-2811(内線217)

看護師再就職支援のご案内

当院では仕事から一時期はなれていて再就職をしたいと考えている看護師の皆さんを対象に、病院で実務研修を行っています。最近の医療・看護の状況を知り、看護技術等の確認をしませんか。看護師として復帰したいけど、ブランクがあって自信がないとお考えの方は、ご相談ください。この事業は、北海道と北海道看護協会が取り組んでいる研修です。

《研修内容》 最近の医療・看護の動向、個人情報保護、医療安全対策、看護計画、救急蘇生法、日常生活の援助技術、輸液管理など
*研修プログラムは、受講生に合わせて個別対応します。

《研修料》 無料

《応募期間》 芽室町近郊の方は12月20日まで受付しております。
(北海道看護協会での申し込みは11月28日で終了しています)

《主催》 社団法人北海道看護協会

《申込書請求》 お電話いただければ、申込み用紙を送付いたします。

お問い合わせ・連絡先

北海道ナースセンター ☎(011)863-6794 または当院看護科 ☎(0155)62-2811

知っていますか 咳エチケット

咳で1.5メートル、くしゃみで3メートル、ウイルスを含むしぶきは飛び散ります!

咳やくしゃみをするときは.....

◎ティッシュで口と鼻をおおみましょう。

◎人ごみはできるだけマスクをつけましょう。

～咳やくしゃみをした後は、よく手を洗いましょう～

飛まつ感染はマスクの着用で予防できます!

◎かぜ・インフルエンザ・結核などの病気は、飛まつ感染・空気感染で人から人に感染します。

◎咳やくしゃみをするときにマスクを着用すると、周囲の人への感染を防ぐことができます。

◎マスクの着用と手洗い、うがいで感染症を予防しましょう。